

第9回森町総合計画審議会議事概要（未定稿）

日 時：平成18年8月30日（水）午前10時～12時

場 所：町民生活センター 集会室

出席委員：鈴木奉会長、友田和副会長、榊原委員、岩瀬委員、岩附委員、打田委員、大石委員、大場委員、小倉委員、小野委員、片岡委員、川口委員、鈴木光委員、鈴木よ委員、田中委員、友田委員、村松委員

事務局：町長、助役、深見課長、杉山課長補佐、長野係長、福島主事
静岡総研2名（石井主任研究員、澤田研究員）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

（1）第8次森町総合計画 基本計画たたき台案について

<資料に基づき事務局説明>

<意見・質疑応答等>

委 員： P7の施策の方向の「子育て支援の充実」の関係については、企業への子育て支援の推進について、何らかの形で整理しておいたらどうか。

また、P21の情報通信基盤の整備の関係では、ADSLについては整備されているようだが、光通信技術の整備についてもNTTとの関係もあるが触れてはどうか。

2007年の団塊の世代の退職で、都市部の人の「田舎暮らし」という意向があるとされている。そういう中で、荒廃農地の利用促進や空き家の利用の促進、そういうものを考えてもよいのではと思うので、こういったことも位置づけてはどうかと思う。

会 長： 今のご発言のような感じで、是非、自由に意見、提案をお願いしたい。

委 員： P3の最後に「国際性豊かな人材の育成を図る」というのがあり、ここで求めている「国際性豊かな人材」とは、どういうことを指しているのか、いろいろ考え方があると思うが、その内容について、記載した方が分かりやすいのではないかと。というのは、共通の理解がないと、人材育成というのはなかなかできない。

P6には、核家族化の問題など、子育てに関する現状と課題が記載してある。また、その一方で、P9の教育の分野にも関わってくる問題でもあるが、

子育て支援の充実では、本当に何が欠けているのか、どのように支援すれば、本当に子供達が健全に育っていく形になっていくのか、そこが気になるところ。例えば、働く女性を支援することによって、子育てがおろそかになってはいないだろうか。ということなどをどのように考えていくのか難しい課題である。個人主義的なことが強調される世の中になってきている。しかし、「子どもを育成する、人を育成する」ということは、社会的な義務であり、きちっとしていかななくてはいけないという内容の精神も教えていかななくてはいけないと思うので、そのあたりも位置づけてはどうかと思う。

さらに、P14にあるが、基本学力、基礎学力の定着についても、分かりやすく若干説明をしたほうがよいのではないか。

P19の中程の「自主運行バスなどの効果的な運行を含めた交通体系の…」の自主運行バスについて教えていただきたい。

P26(2)の商工業の振興のところ、「企業誘致を促進します」とあるが、非常に大事なことであり、戦略的に実現していくというようなことも必要だと思う。

P28については、観光の振興という観点で書かれている。新たなグリーンツーリズムの創出なども掲げられているが、観光振興の基本的なあり方というか、民間と協力して、集客あるいは、施設の充実を進めていくといったようなことを記載していくのがよいと思う。

P29の図の中に、緑化の推進とあり、それに絡んで、P31、32の公園整備も位置づけてある。林業的な緑化というか、森町は見渡す限りに緑に囲まれていると思うので、そのような中での緑化というのは、ミニグリーンツーリズム的な中で考えてもいいのではないか。森林の保全、活用といった中では、いろんなやり方があると思うが、ふんだんな森林があるのだから、活用という意味で森林の保全と絡めて、例えば、森林セラピーであるとか森林医療であるとかそういったものに対しても、積極的に働きかけていく、そういったことも記載してはどうかと思う。

会 長： P19の自主運行バスについて、そのほか何かあれば、事務局お願いします。

事務局： 自主運行バスについては、遠州森町のバスステーションから大河内線、吉川線の2本を走らせている。民間のバスが、採算が取れないため、撤退したいという路線を、生活の足の確保ということで、秋葉バスサービスに委託をし、大河内線、吉川線沿いの住民の足を確保している。

そのほか、もう少し分かりやすく表現してはどうかというご指摘であったと思うので、出来るだけ分かりやすく、簡潔な形で表現していきたいと思う。

子育て支援対策の話があったが、国も少子化対策ということではいろいろ打ち出しているが、本当に効果があるのかということについては、大変難しいところである。負担を軽減すれば、本当に子どもを産む人が増えるのかど

うか。出生率に関しては、一人の女性が産む子どもの数を表す合計特殊出生率は、1.25人に低下している。しかしながら、結婚した人が産む子どもの数を表す完結出生率は、2.2人ということで70年代からほとんど変わっていない。ということは、少子化と言われているが、結婚さえすれば、平均2人の子どもは産んできているということになる。今の少子化対策というのは、結婚した後の人に対してのものが多く、結婚しない人、晩婚化、晩産化ということが大きく影響しているということが言われている。「みんな早く結婚すれば、2.2人産むんですね」ということを考えると、施策の打ち方の工夫も必要なのかなとも思う。ここは、国の方でも答えが出ていないところではあり、難しい課題であると思う。

また、先ほど、光通信の話があったが、企業誘致という観点からも、企業が光ファイバーの整備を望む声もあり、町として、整備していくことは難しいと思うが、NTTなどと連携をとって、できるだけ推進していきたいと思っている。

「田舎暮らし」という話もあり、また、その一方で空き家の話もある。西部地域支援局管内でも、中山間地対策ということで「田舎暮らし」ということで人を呼び込んでどうかという話がある。地元の人からすると、「来てもらいたい、しかし、地元と一緒にとけ込んでもらわなければ困る」という気持ちもあり、そういったところがなかなか難しい問題なのかなと思う。

観光の振興については、民間の協力というご発言があったが、そのとおりであり、もう少しそういった観点を加えていきたいと思う。さらに、いろいろとご意見をいただきたいと思う。

委員： ちょっと見させていただいて、第一印象は、かなり細かい神経を使って少ないページの中に全体をまとめてあるなという感じである。ただ、時代の流れが早いし、方向転換の行政活動を求められている中で、総合計画をどうしていくかというのは、非常に捉えにくいと感じている。どんな時代の中にあろうとも、バイブルというようなものであれば、指針としてはよいのかなとも思う。あまりに抽象レベルに入り込んでしまうのも問題ではあるが、これから、取組の例など、あらゆる角度から補充をしてもらい、抽象レベルのものをイメージとして捉えるようなものが入ってくると、また変わるのかなとも感じた。

具体的な話に入らせてもらおうと、P2の健全な行財政運営の推進について、(2)の成果重視の行財政運営のところ、まさに求められているところではあるが、このタイトルから感じるのは、目標設定型の行政展開というイメージを非常に感じる。しかしながら、この中で書かれているのは、限られた財源と人的資源のもとでの成果ということで書いてある。このタイトルからは、少なくとも組織的なことよりは、目標設定の行政運営のイメージを非常に強くするものであり、確かに住民の求めも強くあり、また、分かりやすい行政

展開ということも求められている。したがって、この項目は純化して欲しいということと、新しく項目を整理して欲しいものもある。合併が進み、行政改革が求められ、その中では、財政の限界もあるということで、住民参加ということが非常に求められている。言ってみれば、外発型の行政活動という位置づけができると思うが、少しいきすぎているという気もしており、むしろ、限られた人材で、いい仕事しろよということも、一方では求められていると思う。その意味では、組織の先鋭化というようなものがもう一つ項目立てがあってもいいのではないかと思う。開発型の行政展開のための組織運営というのか、組織の強化を図るというのか、いわゆる人材の育成というところに関わってくる。これは非常に重要な意味をもつと思うので、新たに項目を1つおけば、信頼される行政という意味で、効率化だけの行政ということではなく、そうではない部分の位置づけをしてはどうかと思う。私はそういうところに非常に期待をしている。

もう一つは、P5の「みんななつかでぬくといまち」の保健・医療・福祉の分野のところであるが、医療に近いところの福祉施策という位置づけが濃いような感じがする。生きがいという福祉の概念も大事であり、もう少し内容の中に出てきてもいいのかなと思う。P11に高齢者の生きがいづくりという言葉が出てきているが、第3節では、生きがいをもって安心して生活できるまちをつくるということを出ている。その「生きがいをもって」の「生きがい」の部分が、P11の高齢者の生きがいづくりという言葉だけで、ほかには介護福祉のような観点でのイメージが強いような感じがする。

それから、もう一つは、細かいことになるかもしれないが、P13の第2章教育の充実と文化の振興という項目があるが、窓口としてのP13の記述を見ると、教育の観点が非常に強くて、中ほどに「生涯をとおした学習活動」ということで、生活文化的なことでは出てくるが、重要な歴史・文化のくくりが、窓口の記述の中では記述が出ていない。入れておく必要があると思う。

事務局： いろいろとご指摘ありがとうございます。目標設定型とか組織の先鋭化とか、表現の仕方を検討していきたいと思う。福祉分野における生きがいづくり、それから、P13については、確かに歴史・文化の記述が窓口部分に位置づけがないということで、再整理していきたいと思う。

委員： 事前に資料を配布していただき、ありがとうございます。おかげで、事前に目をおすことができた。P19の快適に暮らせるまちをつくるという中で出てくる、交通の関係、第二東名そしてインターチェンジが出てきている。また「交通機関は」というところで、P20の道路・交通ネットワークの整備ということが出てくる。そして(1)では計画的な土地利用の推進というようなことも出てくる。こういう中で、計画的な土地利用の中では、ある程度、この地域はこんな方向に進むんだよというような形のものが提案されてきてもいいのかなと思う。(2)の交通ネットワークの中では、第二東名の関係が

「建設促進…」としてあるが、こういう状況を踏まえ、森川橋の架け替えもあるが、町の中の道路整備というものをもう少し盛り込んでいってもよいのではないかと思う。

それから、P30に美しい自然を継承するまちをつくるという中で、現状と課題の中では、「町民や企業などとともにまちづくりを推進し、周辺の環境と調和のとれた景観を形成するためのルールづくりを検討する必要があります」と書かれている。また、P31美しい景観の保全のところ、森町の美しい森林や田園風景といったことが書かれており、「自然景観の保全活動を推進します」というような中で出てくる。さらにP32(4)緑化の推進ということも出てくる。森町の場合、自然環境が見事に残されてきている。これらを残していくことももちろん大切であるが、同時に自然環境を害さないというか、おかしな看板は建てないとか、今の自然をもっと活かせるようなそんな形のルールづくりというようなものがこの中の取組に入ってきてもいいのかなと思う。できれば、景観条例であるとか、そんな形のものも、中に組み込まれていくと一層森町の美しい景観の保全あるいは自然を継承するまちということも、もっと活かされていくという感じがする。

事務局： 景観条例については、町民の意識というか、町民の協力が不可欠であり、一方で制限することも出てくるので、その辺を踏まえて検討していきたい。

委員： 私の感じとしては、総論としては実に立派な文章だなと思う。これはどこの自治体も共通の理念というか、目標設定の文言だと思う。まあ、立派であります。それでいいんじゃないですかというような感じの内容だと思う。

問題は、これはこれでいいと思うが、この次に、細部にわたって実際に行動に移す中身というのが、ほとんどないに等しいと思う。そこが問題だと思う。例を挙げるときりがないが、一例をあげると、産業の振興、大事だよということになってくる。当たり前の話である。先ほど山根委員がおっしゃったとおり、やはり具体的にいうと、空き家があり、商店街がシャッター通りになっている。廃業する商店ばかり増えてくる。私も商工会を担当しているので、本当に、今月またあの店がなくなった、もうあの会社も辞めるって言ってるよ。後継者がもういないよ。見ているとお先真っ暗に近いような会員の姿というものを実に危惧しているという一人である。だから、それを食い止める政策というのは何だということをもっと具体的に官が官としての役割、使命というものを自覚してもらい、それから、事業者、個人ももっと考えて、悩んで、地域社会の産業振興とはなんぞやということ、具体的に取り上げて、それを協働で改革をしていく具体的な策というものを是非、打ち出してほしいと思う。そうしない限り、活性化はありえないのではないかと思う。「第二東名ができます。太田川ダムができます」と言っているだけでは、これは国・県がやる事業であるから、それに結びつける、その利点を何をもって、誰が何をやるか、ということ、たくさんでなくて良いが、1つ

でもいいので、各項目の中で、打ち立てていくのがまちづくりの基本の計画書ではないかと思う。

おおざっぱに言うと、静岡文化芸術大の坂本先生の持論なんかを聞いていると、まあ私ごときが、反論する力はないが、まあ県のおっしゃっているとおりのお用商人的な発言を聞くと、非常に憤慨するというか、私個人としてはそういう気持ちを思っている。森町のことをどこまでご存じですかと、森の歴史、文化、住民感情を、そういうことをどこまでお知りですかと、あえてこちらから質問させていただきたいと思う。森町には森町の、よそから見たらどうかわからないが、誇りというものを持っているので、それにマッチしたような、理解していただく上での発言をお願いしたいと思う。つい反発したくなるようなことをおっしゃっているというのは、ちょっと私は賛成できないという感じがする。

具体的なものに入るが、教育・文化の分野においても、教育、人を教えて育てるということはどういうことかということ今一度、的確に考えなくてはいけない。「人というのは教えるだけでは駄目である、育てるのである」ということを考えなくてはいけない。これは、産業界に身をおくものにとっては、跡継ぎを育てる。教育をし、育てる。これは、自分の息子であり、あってもなくてもいいが、一生懸命頑張っている親の姿を見せ、そして息子も、親があれだけ頑張っているんだ、大変かもしれないが、俺も生きがいを感じて後を継ぐよというような商店が増えていくことを一番望んでいきたいと思う。そうすれば、生きがいを感じてくるような商店がまた増えてくるのではないかという気がする。

地域のコミュニティーも深まり、信頼関係、安心安全の付き合いができてくる。いろいろなものに発展していく。祭りにしても、消防にしても、PTAの会合にしても、そういう役割をやっている、重責を担っている役員の方々をみれば、自営で、この土地で頑張っている皆さんが多い。日中、外の市町村、遠いところへお勤めになっている皆さんは、なかなかできない。ということで家にいて、頑張っている人達が、ほとんど祭りの運営に関わり、消防団の団員になっているという実例を見ると、こういう方々をもっともっと大事にしていく必要があるのではないか。親も自分の子どもに向かって、「森の町はいいよ」と、実行して、そういう言葉を使う。「はあ、えらくてしょうがないし、儲かりもしないし、こんな町じゃ」と言っていれば、息子はイヤになって、出ていったきり、帰ってこないということだと思う。いわゆる、Iターン・Uターンというようなこともあるが、「よそから、森がいいよと言って住みに来たいと思われる町って何だろう」と町民も、もっともっと考えなくてはいけないし、こういう文章をつくる時は、具体的な、誘い水をかけるような「あっ、こういうことをやってくれるのか」というようなこと、「こういうことを考えてくれるのであるならいってみよう」、「町にも、役場にもお願いしてみよう」、「この団体に加入してみよう」というような気にな

と思う。この文章の次に来る、各項目の具体化、具体的に何を、誰が、どこが、官がやるのか、民がやるのか、経済団体が担ってくれっていうのか、また、担おうというのか、もっともっとお互いがつめていくべきだと思う。

教育・文化、1つ取り上げても、義務教育までは書いてあるが、それ以上の専門教育、高等教育、大学教育、そこはこの文章にはない。3年先には、森の高等学校が1つになる。県の方針で決まっている。私も森高等学校の同窓会長であるが、周智高等学校の会長さんとも、交誼しながら、県議にもお世話になりながら、県にも陳情しているが、高等学校教育というのは、森の人間が行くだけではなくて、周辺市町村からも森のあの高校がいいよと来てくれる、これはお客さんでもあるし、最も大事な将来性のある若者が来てくれるわけであるから、大事な項目として織り込んでほしいと思う。できることなら、国立の教育施設等も来てもらいたいと思うのであれば、そういうことまで、努力してみるということも必要であるし、高等学校が1つになる、今度複合学科をもった学校になる、これはこれで結構なことだと思う。その中身、よりいい、お客さんというか、1つの将来を担って立つ青少年が来てくれる、それを迎えることも我々としては、歓迎をしてあげたいし、喜んで森の高校へ行ってよかったと思うような雰囲気とまちづくりをしていくバックボーンというかベースというものが必要であると思うので、このようなまちづくりの総合計画の中には、高等学校教育以上の専門分野を含めた項目があっても当然しかるべきであると、もうすでに、新しくできる高校の校舎は、森高等学校のほうにできる計画と聞いている。我々としても歓迎している。一方で周智高等学校のほうは空いてくる。この跡地利用をどうするか。具体的に町の姿勢として、当然、もっときちっと県のほうに要求し、来てもらうようにお願いすべきだと思う。また、地域の教育・文化、あるいはコミュニティの場としても、大事な跡地であるので、利用できるような施策をつくってもいいだろうと思うと、1つ1つが具体的に項目をしっかりとあげた中で、あげれる範囲内で計画書をつくっていただきたいと思う。

ただ、民間の活力を必要とするなら呼び掛ける。商工会がもうちょっとこういうことを考えろよ、こういうふうにしてくれないかというような発言があってもいいだろうと思う。予算面だけで、前年比何%カットというだけじゃなくて、夢、将来、だけど自分らも出さないかということになれば、我々も民間資本を出す努力をする。しなくてはいけないと思う。100の資金が必要であるなら、町が50しか出せない、では残りの50は我々が出そうという仕事が、そういう思いが、官民一体となった将来展望をしたときの考え方ではないかなと思う。より積極的に、町、役所としてもそういう姿勢でもって職員の皆さんに頑張ってもらって、我々のほうにも、はっぱをかけて欲しいとそんなふうに感じている。より具体的なことは、とても申し上げる時間はないが、1つ1つ言うと、先ほど出た空き家対策など、すぐにでもやって欲しい、極端なことを言うと、空き家をもっている人が、自分の財産だから、そ

んなこと言っても知らないよ。じゃなくて、やはり心を動かすだけの、動かしてもらっただけの努力をしなくてはいけないのではないかなと思う。もっと総論的に言うならば、個人の私有財産が認められている民主国家であるため、所有権は認めているが、それは社会にためになり、また活かされるものとして町が必要とするならば、また社会が必要とするならば、協力してもらおう、そういうことが一人ひとりの国民としての姿勢であると思う。売りもしないが、貸しもしないというような姿勢が、見受けられる点があるが、そういうことではなくて、「役に立つのであれば、どうぞお使いください」という方も必ずいると思うので、それをどう活かすかは我々の知恵である、そこに住んでいる人の責任でもあるというふうに思う。よろしくお願ひしたいと思う

委員： 3点ほどあります。1点目は、全体の印象として、非常によく書けている。しかし、ある意味、オーソドックスである。おそらく他の自治体でも通用するような内容であると思う。いい反面、ちょっと個性がないような内容である。現状では従来型のなんでもやりますというようなタイプのものではないが、その割に、これを見たときに、町民の方が、これから森町がどうしていくよとか、変わるよというような印象を受けるかどうか、私は町民ではないので一部の人に聞いてみたいが、やや疑問なのかなと思う。もう少し、各分野で今後進めるべき施策、内容なり、テーマを絞り込んでいただきたい。行政として着々とすべきことというものはあるので、それはやるという前提で、その中でも特に注目すべき点、中心点を書きこんでいただければと思う。

2点目は、1章のところ、3つの内容が入っている。これは基本構想の中の、最後の部分に出てくる。ある意味、基本計画で今後こういう施策を進めていきますという中で、1つの取り組み方というか、アプローチだと思う。私が多少違和感を感じるのは、いきなり計画の最初にアプローチが入ってくる。何をやるということがないままに、こういうアプローチで活動するというのが先に来ている。じゃあ、何をしますかというところが後にくるというのが、若干違和感を感じるころがあるので、例えば、これは基本構想を具体化したものである、基本構想に挙げてある理念をもう少し、基本計画の計画期間中にどう実現していくのか、何を目指していくのか、ということをも最初に明確にした上で、展開していったほうがわかりやすいのではないかなと思う。

3点めは、私の意見というより行財政改革推進委員会が出た意見だが、行財政改革であるので、どうしても予算を切るとか、人員を減らすとかそういう話になるが、委員の皆さん、かなり経営者の方が多いということで、切るのみではなく、税収を増やすというような取組をぜひやっていったらどうかという意見がよくでてくる。それはある意味では、地域の活性化ということにつながっていく。それは資料でいうと、第4章の産業の振興というところ

ろになると思う。特に委員の皆さんは、観光というところに期待をしていて、今も観光の話が出ているが、グリーンツーリズムというものを日本全国でやっているが、どれくらい成功しているかという点にはやや疑問もあるが、観光というところをもう少し突っ込んで、森町らしいグリーンツーリズムというのは何かということがイメージできるような内容で書いてもらうといいのではないかと思う。

事務局： もう少しテーマを絞る、内容を絞るということだが、森町らしい取組といったところであるが、それについては、第2章の具体的な取組、まだ未整理なわけだが、こういったところに力を入れていくんだよというところを今後、いろいろ意見を聞いて整理していきたいと思う。

もう一つは、取組の例を今後、整理していくことによって、今ご指摘のあったところについて、出来るだけ応えられるものにしていきたいと思う。

構成については、確かに「計画の推進」が冒頭にきているというところであるが、これについては、おっしゃるようないろいろな総合計画では、計画の推進というのは、だいたい後ろのほうにきている。現時点で、一番頭に出している意図というのは、協働まちづくり委員会であるとか、いろいろなご意見、昨今の状況等を踏まえると、今、「協働」ということや「健全な行財政運営」ということが強くうたわれている。そういった事を踏まえて、一番頭に出しているところではある。ご指摘の点を踏まえて、どういった構成が分かりやすいのかということも含めて考えていきたいと思う。

委員： 全体的な印象だが、総合計画における基本計画であるので、網羅的になるのは私は仕方がないと思う。というか行政サイドからいうと、網羅的にせざるをえないと思う。町民に対して、サービスをするという時に、職種あるいは置かれた立場がそれぞれ違うので、その町民に対して皆に関わり合いを持たせるという点においては、基本構想を踏まえて、各論でもって位置づける。それに対してどうするのかということであるが、今回確かに具体的なものが載っていないので、これから出てくるとは思う。その中で、私がこうなったほうがいいなあと思うことを申し上げると、P4の第2章について、町民の方がこの計画書が出てきた時に、何をやりたいんだということが分かるという意味では、この重点的な取組というところについて、こういうふうにやったらどうかということを1つ、こうしなさいということではなく、考え方として、提案したいと思う。各論は第1から第5章までであるが、その5つの項目ごとに軸足をおいたプロジェクトというものが、目玉商品といいますか、そういうものが5つできる。ただし、その5つというのは、その章に対して中心があるのであって、他の章とは関係がないというのではなくて、その章を中心として、他の章とも関連するような展開の重点施策というものがいいのではないかと思う。そうしないと、常に縦割りのことになってしまう。例えば、もう少し、分かりやすいことを言うと、私が今思いつきで森町の知っ

ている知識から言うと、例えば太田川を活かした太田川プロジェクトという
ようなものを立ち上げたとする。自然を活かしたとか、観光とかいろいろあ
るが、例えば太田川と言ったときに、私も桜が咲く時を見させていただいた
り、太田川ダムの問題とか、これは言うなれば、観光であり農業であり、あ
るいは景観とか、いろいろな取組を展開できるのではないかと思う。したが
って、私はたまたま太田川プロジェクトと申し上げたが、こういうふうなも
のをやりたいなというものを町民からあげる必要があるかなと思う。今まで
もこういう施策は行政が中心となって作るので、掲げるがその時から、さあ
どうしましょうというようなワークショップのようなものを行うが、願わく
は、今回時間の制限などもあるかもしれないが、私は5つの重点施策という
ものを項目として出して、言いたいことを言っていた。情報公開という
のは、こういうふうなことを5つあげたが、どうでしょうかということ町
民にフィードバックして、ご意見をお伺いするというのもあると思う。

もう一つ私も参画させていただいているが、町中プロジェクトというのを
やったとする。私も今思いつきで言葉を言っているのですがそのとおりとい
うことではないが、空き店舗の問題もあるし、地場産業という問題もある。商業
とか産業といった問題も絡んでくる。それに関係するようなこと、例えば、
高齢者の問題も、ケアホームというか、空き家を使ってというか、空き家は
あまり耐震性がないかもしれないが、そういうスペースがあったときに、高
齢者に対する対策というのも町中ではこういうことを展開したほうがいい、
つまり、いろんな人の意見を聞きながら、いわゆる関心事が一番高い内容と
は何かということ最終的にはそのプロジェクトとして掲げるのがよいと思
う。P4の重点施策というのは、5つぐらいあげてもらい、その5つもそれ
ぞれの分野に対して中心部分があり、かつ他の分野、例えば産業振興の場合、
教育とも関係するので、産業振興を中心としながら、教育・文化も巻き込む
ようなプロジェクトを作れば、この計画書ができるときに、少なくとも5つ
一緒にやるのは難しいかもしれないが、その内2つ3つから始めましょうと
いうようなことで展開すれば、計画書をつくる過程の中で、こんな事をやり
たい、やれる、やる必要があるということ、文書をつくる側が認識を高め
ていきながらやるといいのかなと思う。

会 長： 今日、時間もなくなってきたわけだが、今日いろいろご意見を出してい
ただいた中、また、協働まちづくり委員会の意見もあるし、また、町民アン
ケートの集約された意見もある。具体的ないろいろな事業名とか、要望とか、
意見とかいうものも出てきてはいるが、次回あたりは、このようないろい
ろなご意見を踏まえた中で、その辺も出てくるのではないかと思う。

事務局： 進め方としては、役場で整理中である「取組の例」のところを、審議会の
意見などを踏まえて、次回、示していきたいと思う。

それと、ご指摘があった点、第2章についても、協働まちづくり委員会と

か、今までいろいろいただいている意見等を整理して、分野横断的な形で何本か整理させていただいて、そこについて、いろいろご議論していただけるよう、整理していきたいと思っている。

委員： 補足の説明をさせていただきたい。その後、いろいろなご意見がでて、背景にこういう事を念頭におきながら発言をなされているなあと思う。それは、私も同感であるが、田中先生にしても、川口先生にしても、結果、同じ事を背景にもっているのではないかと思うことは、総合的に、総花的にやりすぎると、これからの取組に対して、変化がないという、マンネリ的な思いをもってみられるんじゃないかというご指摘であると思う。しかし生活者というのは、いろいろな問題、課題を抱えているので、これに的確に窓口をもっていきますよという思いを伝えるには、総花的にならざるをえないだろうなというご指摘もごもっともだと思う。それを補うのが、この重点的な取組ということで期待感をもたせるし、新しい展開もそこに感じさせるといういろんなものをイメージさせる点からいっても、重要な意味を持つ欄になってくると思う。それは、先ほど発言させていただいたとおりだが、1つ私が心配するのは、こうして総花的にやると、これから先の行政運営に関する覚悟の程が見えにくいというそのところをずっと心配している。少なくともこの合併の時代にあっては、単独森町がこれからどうやって生きていくのかという上では、「住民の皆さん一緒にやろうよ、あるいはこれを基本にいろいろ考えていくが相当に厳しいよ、しかし、行政やるよ」という、今の時点では合併するという事を前提とはしていないのだから、自立のまちづくりという意気込みをこの窓口にもう少し住民に語りかけてもいいのではないかと思う。それでないと、また従来のやり直しの総花の計画が出てきたわいとそういうふうに見られてしまうのがオチではないかと少なくとも懸念しているところである。したがって、新しい感覚の総合計画だよ、一緒にやろうという呼びかけを強烈にいれて、出していくべきではないかなと思うと感じた次第である。

委員： 私は、協働まちづくり委員会の代表として出させていただいているが、ここに各論が出ているが、どうしても文章にまとめると、こういうふうにならざるをえないのかなと思う。実際に私どもが、まちづくりの提言をさせていただいたわけだが、非常に細かく具体的な内容も詰めていったわけだが、こんなふうなプロジェクトも必要であろうとか、いろんな意見を出させていただいた。ただ、まとめていくとこういうふうにかざるをえなかったのかなと思う。次回には、まちづくり委員会の委員の意見も聞いて、意見を出させていただくということになると思う。ただ、私も非常に感じているところは、岩瀬委員からも話があったが、要するに町民が、いかにこれをやっていくかという気持ちを高めていくかということが大切ではないかと思う。私も商工会のなかで、ゴミの問題を扱った。「広報もりまち」に3回にわたって

提言させてもらったり、地球はゴミ箱じゃないよといったような内容のポスターを作らせてもらったりもした。環自協の皆さんにもそれを引き継いでもらい、とにかくゴミを捨てるなという、町をきれいにしようよ、それが地球温暖化を防ぐんだよという内容のことを進めてきたわけだが、それもやっぱり、心の、気持ちの持ち方であり、見ていると平気でゴミを捨てる人はいるし、頭で分かっているけど行動が伴わない、そういう人がかなり大勢いるのだと思う。そういったものを、一番最初の総論の部分にあるが、協働に関する意識、意識の啓発これを、我々まちづくり委員に携わった者もそうだが、ここにいる皆様方も、是非こういったもののスポークスマンになっていただいて、みんなでやろうよというような気持ちをもっていただいて、少しでも拡げていただくのが肝心ではないかなと思う。

今度、町の中に次郎柿の原木があり、原木の保存会があるが、その保存会が毎月、原木のところの草刈など整備をしている。まちづくり委員会としても、そういったところで、森町各地からメンバーが出ているので、原木というのは知っていても、どこにあるのか分からないし、どういう状態にあるのかも知らない人がいるので、委員みんなで、草刈りのお手伝いをさせていただいて、少しそういったところから、実際に自分たちが動いて、呼びかけをして、協働のまちづくりなんだよという意識づけを、高めることのできる一端になればいいかなと思う。今度、そのようなことをやらせてもらうことになった。ぜひ、今日ここに出ている委員の皆さんも、各自、率先してやっていただいて、そこから拡がっていけばと思う。ここでいろんな意見を出していても、実際に行動がなかったら何にもならないと思う。せっかくここに出ているので、こういった雰囲気というものを、個々に伝えていただき、その地域地域が、よしやろうよというような気持ちになるようにと思う。

委員： 農業委員の代表ということで、第1点は、教育分野において、食育の問題、大切さというものを1つあげておきたい。細かいことをいうと長くなるが、厳しい時代になっているので、幼小中だけではなくて、子を持つ親御さんにも、分かってもらえるような食育の大切さというものを位置づけてほしいということが第1点。

それから、関連するが、今農業委員会のなかでも、遊休農地の把握について、もう少しというところまでできているが、遊休農地の有効利用というものをどう考えたらいいいのかということ盛り込んでいただきたい。

委員： 3点ばかり簡単に。吉川の奥の方に住んでいるが、この夏の暑さで、川遊びの人が特別に多く、夏の暑さで、元開橋から奥が、夏の江ノ島海岸のようになっている。車はいっぱい、アクティ森の裏も結構広いが、いっぱいになって道路の方に出ている。バスが通るのに通れない。地元ではとてもそういうものに対応できない。町としても具体的に対応していかなくてははいけな

いと思う。

それから、もう1点、少子化の話だが、生きがいという点から、人が子孫を残すとか、子どもを育てていくというのは、最大の生きがいだと思う。人間の一番の宝物は、やっぱり子ども、孫だと思う。これを育てていくのが、幸福感であると思う。お金でもなければ、地位でもないと思う。そういうことを今の若い人たちに分かって欲しいと思う。

それから、もう1点、40代50代の独身男性が多い。どうなんだろうと思う。女性が結婚したくないのかということ、結婚という問題は、昔から、一夫一婦制度という、何千年の中から出来てきた制度であるから、結婚するという問題に対して、それが人間社会の幸せのためだということから教えていかななくてはいけないと思う。

それから、山に住んでいて、人材育成が大事というが、ではどうやってやっていくのか。若い人はみんな町へ出てしまう。今、住んでいる人達も、足があるうちはいいが、なくなると、息子などがいる町へ出て行ってしまう。東亀久保など、家がなくなってしまう。せつかく大きなダムができて地域が活性化しても、地元の人たちがいなくなってしまう。目に見えてきている。何とかそういう問題について、私達も「帰ってこいよ。決して山の中でなければ、むしろ、日本の中では、静岡県が一番いいところだからと、是非、ふるさとを大事にしてくださいよ」と言っている。若い人たちにそういうようなことを教えていかないといけないのかなと思っている。

会 長： ちょっと時間が足りなくて申し訳ない感じがするが、特になければ今日はこのくらいで終わりたいと思う。

(2) その他について

事務局： いろいろなご意見、ご指摘ありがとうございます。次回の進め方については、本日のご意見等を踏まえて、再整理し、主要事業等を入れて、どこまで整理できるかというところもあるが、諮問の前の段階ということで、ご議論をお願いしたいと思う。

次回の予定は、今後、正式に通知はしますが、10月10日（火）14:00より、町民生活センター集会室で開催予定である。よろしくをお願いしたいと思う。

4 閉 会